

## 経済学委員会数量的経済・政策分析分科会（第26期・第1回）

### 議 事 要 旨

1. 会議名 経済学委員会数量的経済・政策分析分科会（第26期・第1回）
2. 日 時 令和6年2月16日（金）15時00分～16時00分
3. 会 場 オンライン開催
4. 出席者 臼井 恵美子、岩城 秀樹、宇南山 卓、川崎 能典、小原 美紀、塩路 悦朗、高槻 泰郎、豊田 哲也、中村 さやか、西山 慶彦、早川和彦、福重 元嗣、松尾 美和、山下 智志（14名）
5. 議 題：
  - 1) 委員長・副委員長・幹事の選任
  - 2) 委員の追加について
  - 3) 来年度中開催の学術フォーラムに企画案を出すかの検討
  - 4) 日本経済学会春季大会でのチュートリアルセッションについて

#### 議事録

##### 1) 委員長・副委員長・幹事の選任

委員長に宇南山卓先生、副委員長に小原美紀先生、幹事に中村さやか先生、高槻泰郎先生が、それぞれ選任された。

##### 2) 委員の追加について

第359回幹事会（令和5年12月22日）において承認された当分科会の定員17名に加えて、今後、委員を追加する可能性を残しておくべきか、について議論がなされた。定員が増えれば、それだけ定足数が増えてしまうという懸念があるが、1～2名程度であれば、希望があれば追加を検討する、ということで合意がなされた。もともと、当分科会の定員は17名と幹事会で定められているため、追加の希望があれば、定員の拡大と追加の可否について、幹事会に伺いを立てる、ということになった。

### 3) 来年度中開催の学術フォーラムに企画案を出すかの検討

当分科会世話人の臼井恵美子先生より、学術フォーラムを開催したい、あるいは提言、見解などがあれば、積極的に提案して欲しい旨、説明がなされたが、来年度については、特に希望は出されなかったため、企画案は提出しない旨、合意された。

### 4) 日本経済学会春季大会でのチュートリアルセッションについて

日本経済学会の春・秋大会にてチュートリアルセッションを企画するということが前期以来、本分科会の重要な活動であったが、今期 26 期もそれを継続していくことが確認された。

また、これまでは日本経済学会春季大会においてチュートリアルセッションを開催してきたが、2024 年度は秋季大会にて企画セッションとして申請すること、今後も春季か秋季かは柔軟に選択していくことについて合意された。

なお、2024 年度秋季大会にて申請する内容は、第 25 期第 4 回に合意された通り、広く「消費」をテーマにしたチュートリアルセッションを宇南山卓先生が担当することについて、合意された。

2025 年度以降のチュートリアルセッションについては、日本経済学会春季大会に合わせて開催される第 2 回分科会までに候補者を考えておく、ということについて合意がなされた。

その他の議題として、前期以来、継続して議論してきた、コロナ禍や災害などの非常事態によって中断されてしまった統計調査を継続させていくために、こういった施策が必要かについて、分科会としてヒアリングを実施して、提言を出すか否かという点に関して、再び議論がなされた。

災害などの非常事態によって、統計調査がどのような影響を受けたのか（マニュアル通りの調査が可能であったのか否か、不可能であった場合に現場ではどのような対応がなされたのか）について、まずは調査実施者にヒアリングしてみる、ということから始めてみてはどうか、という意見が出た。その内容を踏まえて、提言、意思の表出（見解、報告）、記録の作成などのアウトプット形式から、適切な形式を検討するということについて合意がなされた。

また、中村さやか先生が中心となって分科会の中にワーキンググループ（WG）を作り、その WG が上記のヒアリングを実施することについて合意がなされた。

本分科会として、いわゆる回帰分析に縛られない分析手法を広く検討するための企画（例えば「数量的分析のあり方を考える」と題したフォーラム等）を考えてもよいのではないか、という提案がなされ、この件については継続審議事項としていくことについて合意がなされた。

（以上）